

出版ダイジェスト

臨時増刊

社団法人 出版粋会 出版ダイジェスト社 発行人 鈴木 肇
毎月3回(1日・11日・21日)発行 購読料1ヵ年=送料共1,575円(税込) 電話03-3292-2323
東京都千代田区神田小川町3-28-13 ラフィネお茶の水805 〒101-0052 郵便振替 00190-3-95516

いま地域と
教育を考える



2000年は、子ども読書年

NCL 児童書センター開設記念特集

10月オープン

教育改革・学校図書館整備の応援団!
調べ学習・「総合的な学習の時間」のための教材開発の宝庫!
自然と子どもたちを結ぶ活動を推進!



NCL (自然と子どもたちを結ぶ会) 事務局
農文協
東京都港区赤坂7-6-1 〒107-8668
TEL03(3585)1142
FAX03(3585)3668
<http://www.ruralnet.or.jp/~NCL/>

NCL会員社
岩崎書店/講談社/さ・え・ら書房/旬報社/小学館/汐
文社/農文協/PHP研究所/評論社/ほるぷ出版
＜2000年スポット参加社＞朝日新聞社/潮出版社/柏書
房/紀伊国屋書店/KTC中央出版/合同出版/全国学校
図書館協議会/太郎次郎社/晩成書房/文溪堂/ベースポ
ール・マガジン社/星の環会/三善/メディアパル

本 号 の 目 次

「NCL児童書センター」東京の大手町にいよいよオープン	2	Jump
●「総合的な学習の時間」を創ろう! / 「NCLの会」の案内・今後の活動		
「そだててあそぼう」の人気の秘密をさぐる	4	Jump
●農業体験活動を全小学校の七割が実施/農業から文化へ、国際理解へ		
いま地域と学校が結びつく意味—農村と都市の動きから	5	Jump
●学校は地域活性化の「ヘソ」、子どもは地域の宝		
【文部省委嘱事業】「食」と「農」の学習・実践事例募集中!	6	Jump
●教育関係者と農林漁業関係者が連携		
オンデマンド出版で「総合」を実りあるものに!	7	Jump
本の寄贈運動で子どもたちの学習を支援!	8	
NCL特選カタログ2000	9~28	
オープン記念アンケート	29	
NCL特選カタログ注文書	30・31	

ご回覧
下さい

いよいよオープン



NCL児童書センター 営業案内

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3 JAビル地下1階

TEL:03-3245-7647 FAX:03-3270-2800(24時間受付)

営業時間 平日9:00~18:00 土曜9:00~12:00(第2土曜日・日曜・祝祭日は休み)

●第1・3土曜日午後来店希望の場合、NCL事務局(TEL:03-3585-1142)までご連絡ください。ご対応いたします。



「総合的な学習の時間」を創ろう!

学校や地域の特色に応じた創意工夫する。体験や観察・実験、見学・調査、発表や討論、問題解決的な学習重視、地域の方々のさまざまな経験やアドバイスをあおぐ、校外資源を活かす、全職員が一体となって指導に当たる(新学習指導要領・総則より要旨)。移行期とはいえ、先生にとっては教科書が無い未知の領域Ⅱ「総合的な学習の時間」が始まりました。「学校や地域の特色」といっても、「良い特色」ばかりが有るとは限りません。自然が無い、商店が無い、教師に専門家がいない。でも、無いかこそ取り組む意義が有る、無いかこそ校外の方々に「地域の先生」になつてもらい、地域・学校・家庭の関係が深まっていく。そういった創意と工夫こそが「総合的な学習」の入口ではないでしょうか。全国にはそんな事例が続出しています。

学校図書館を「学習・情報センター」に!

今年は、憲政史上はじめて子どもたちの読書環境充実を国会決議した「子ども読書年」です。五月五日の子どもの日には、国立の「国際子ども図書館」が東京・上野

「NCLの会」の誕生

「NCLの会」は一九九二年に活動を開始した、学校図書館巡回販売グループです。学校図書館への販売は出版社がグループをつくり共同で販売していくという歴史があり、出版社は新年度にあわせ新しい商品(書籍・絵本)を発行していきます。この「NCLの会」とは、Nature Child Library(自然と子どもたちを結ぶ会)の略称です。事務局を農文協におき、講談社・小学館・岩崎書店・PHP研究所・沙文社・さくら書房・評論社・ほる出版・旬報社の会員社と朝日新聞社・全国学校図書館協議会・星の環会などのスポット社あわせて二五社で構成されています。

ユニークな分類で展示、楽しく選ぶ

その「NCLの会」が毎年発行する「NCL図書目録」が大変好評を得てきています。その「NCL図書目録」に掲載している全商品を常設する「NCL児童書センター」をこの度、東京・大手町に新規開設しました。五八五セット:約五〇〇冊が手に取り見られる常設展示場です。また、棚の展示方法も「NCL

にオープンし、読書運動のさまざまなイベントが行われています。「子ども読書年」を今年だけのお祭りに終わらせることなく、これを契機に一層学校図書館が充実することを願っています。「総合的な学習の時間」や「調べ学習」がいつでもできる本やパソコンソフトがそろい、インターネットもできる「学習・情報センター」として、同時に夢を育む楽しい読書に役立つ本も充実した「オアシスのような学校図書館」として、使われ役立つ施設にしていきたい。そのために、学校施設に関する唯一の法律「学校図書館法」があるのですから。二〇〇三年度からの司書教諭の設置はもちろんのこと、先生の授業にも花開く学校図書館にしていきたい。

農文協

食農教育

きなこと何でできているの? 素朴な疑問から“たべる”と“つくる”が繋がってきます。子どもたちにとって、もっとも身近な自然=食から、環境も異文化も福祉も情報も見えてくるのです。学校と地域をとともに元気にする雑誌です。

2001年1月号から隔月刊行開始!

●2000年1月号(2000年12月発行)

特集:こうしたらどうですか『総合』

№1「学ぶ意欲を生む本物体験編」。
菊名人に学び菊花展に出展、米名人の学ぶ減農薬の稲づくり、豆腐屋さんに学ぶ本物にがりの豆腐づくりなど、その道の達人に学ぶダイナミックな実践を大特集。図解ページでは牛乳を使う簡単な食品づくりに挑戦。

A5判
定価800円(〒120円)
年間購読料4800円(〒込)



「NCL児童書センター」東京の大手町に

ような、情報センターにふさわしい品揃えです。

「NCL児童書センター」に隣接している姉妹店、農文協直営の「農業書センター」もユニークな書店です。来場のおりはぜひのぞいて見てくださいます。

今や地域(農村)は1次産業×2次産業×3次産業の6次産業の時代です。実に多彩な品ぞろえをしております。もちろん一五〇〇点の在庫を持つ農林水産関係の書籍では日本一の専門書店です。栽培関係、生物関係、食

図書台帳つきですばやく一括納品

「NCLの会」のカatalogには五八五セット(約五〇〇〇冊)の商品が掲載されています。

通常、図書の注文は各学校から地元の出入り書店に注文が出され、書店から各出版社に注文が回されます。各出版社はそれぞれ発注された学校分として書店に商品を届けますが、各社バラバラに入荷しているのが現状です。この状況を変えるべく、NCLの会では書店に一括送品(各学校別)を開始しました。また、その際、セツト商品でも単品

「NCLの会」学校会員募集開始!

NCL児童書センター新規開設を記念して「NCLの会」学校会員を募集します。教育

改革に役立つ各種特典を設けます。ぜひ入会ください。ただし、以下の資料費がかか

ROMも充実、食農教育、環境教育、健康・食教育、地域教育、野外教育、自然観察、特活等に関連した情報センターとして、すでに多くの教育関係者に「来場いただきたい」です。ユニークな情報であふれています。

「NCL児童書センター」という常設展示場がオープンすることにより、いよいよ本番を迎える教育改革がめざす、「地域の学校づくり」：新たな地域教育運動を応援するセンターとして「NCLの会」は新たな活動を開始します。

学校会員特典

- ①年一回発行の「NCL図書目録」を毎年無料でお届けします。学校図書情報満載された図書カタログです。また、「図書情報紙」(出版ダイジェスト)NCL版をお送りいたします。
- ②巡回販売として、希望の学校・教育委員会・公民館には巡回展示販売も行なっております。(来年度)希望の場合もお申し込みいただければお受けします。図書整備も承ります(別途実費)。
- ③教師用、教科関連図書購入に便利な通販システム「田舎の本屋さん」(八頁記事下の案内を参照)がご利用いただけます。NCL目録以外の書籍も注文できます。個人のご注文も同様にお受けいたします。
- ④体験学習・調べ学習に役立つインターネット、食と農のデータベース「ルーラ電子図書館」の検索とデータ入手ができます(七頁記事下の案内を参照)。
- ⑤さらに併設の「食農教育」交流サイトにも参加できます。体験学習マニュアル作成、総合的な学習プランの立案、地域学習教材の開発、「総合」と教科を結び指導事例などの、情報収集ができます。
- ⑥「NCLの会」が関係する全国規模、各県段階の各種教育研究集会等の案内が、優先的に参加できます。
- ⑦市町村の特徴を把握するセンサス情報の提供、各種データベース活用研修の講師派遣など、さまざまな御相談もお受けします。

NCLの会の注文について

★巻末の注文用紙をご利用下さい

●地元書店より注文の場合

注文書を指定の書店を明記して「NCLの会」事務局(農文協)へFAXか郵送でお送り下さい。

●「NCL児童書センター」へ注文の場合

注文書を「NCLの会」事務局(農文協)へFAXか郵送でお送り下さい。「NCL児童書センター」より直接納品させていただきます。請求書等の書類が必要な場合は注文書とあわせてお送り下さい。

●「NCL児童書センター」に「来場いただき購入の場合」普通の書店同様その場でご購入できます。また学校への宅配指定書店を通じてのご購入もできます。

農文協

技術教室



技術教育・家庭科教育について研究している産業教育研究連盟が「技術教室」の編集をしている。単にモノづくりだけでなく、社会や生活を見つめ、生きる力を育てる教育を研究。教師・研究者だけでなく、さまざまな産業に関わる人々とともに研究と実践を深めていきたいと考えている。

産業教育研究連盟 飯田朗

月刊A5判・定価720円(〒90円)年間購読料8640円(〒込)

- 2000年11月号 特集：子どもの危機と技術教育・家庭科教育
- 2000年10月号 特集：ロボットコンテストの魅力

初等理科教育



私たちは子どもの自然離れに大きな危機感を覚えています。本誌が、全国の理科に関心を持つ「志」のある仲間による情報発信、共有、創造の場となり、互いに学び合うことで教師としての力量をつける場となることを信じています。

露木和男(日本初等理科教育研究会編集部 部長・筑波大学附属小学校)

月刊B5判・定価700円(〒100円)年間購読料8400円(〒込)

- 2000年11月号 特集：子どもの小さな発見を授業に生かす
- 2000年10月号 特集：パソコン・インターネットを授業に生かす

食と農の総合的学習絵本 「そだててあそぼう」の人気の秘密をさぐる

第24巻『サトウキビの絵本』より。スズキコージ・絵

9 さあ、おまなかねの収穫だ、かじってみよう
きみのサトウキビは、元気によく育っているかな? はやく収穫したい! なんて思っている
きみには、収穫までまだきかないかもしれないね。でも、よく育って収穫したほうが
いっぱいあまさがたまっているよ。畑のおりる地方なら、畑がおりる前に収穫するといひ。
このころがいちばんあまくなっているからね。畑のおりる地方なら、畑がおりる前に収穫するといひ。
畑が育ったあとでまたいじょうじ。夏のあたまの部分が、畑のようにすこしひらいて、
黄緑っぽくなってきたら、収穫が近いよ。



一流絵本作家の斬新なイラストと
専門研究者による濃い中味

学校図書館巡回訪問にはそ
のときどきの教育状況が反映
される。NCLの今年度の注
文トップは『そだててあそ
う』シリーズ。「トマトの絵
本」からスタートしたこのシ
リーズには、学校菜園での失
敗しない育て方、おもしろ実
験、観察のポイント、食べ方

歴史、文化までまるごと描か
れている。つまり「そだてて
たべて、しらべる」がキャッ
チフレーズだ。試験場や大学
の専門研究者が作物・家畜ご
とに執筆した内容の確かさ・
濃さと、スズキコージ、飯野
和好、本くに子ら絵本作家の
斬新なイラストが人気の秘訣

「そだてて、たべる」から、
作物、家畜をめぐる文化や国
際関係を「しらべ」たり、そ
こで情報リテラシーを高めよ
うとする試みも出てきた。
「そだててあそぼう」シリー
ズ全二五巻を各五冊とか一〇
冊ずつそろえて、子どもたち
の調べ活動に活用している学
校も多い。

東京都町田市の私立和光鶴
川小学校では今年五年生のソ
バの学習で「そだててあそ
う」シリーズの「ソバの絵本」
を活用しているほか、「CD
ROM版日本の食生活全

農業から文化へ、国際理解へ 「しらべる」活動が広がる

このような人気の背景に
は、「そだてて、たべる」体
験が小中学校で広く行われる
ようになったことがある。東
海近畿農政局が岐阜、愛知、
三重の東海三県の全小学校を
対象として実施した調査
(農業体験学習の取組状況、
アンケートの回収率八三%)
によれば、平成二年度に農
業体験学習を実施したと回答
した小学校は六八%にのぼっ
ており、実施された学年も五
年生を筆頭に全学年にわたっ
ている。小学校一、二年の生

農業体験活動を全小学校の七割が実施

である。最新巻の「ヤギの絵
本」まですでに五集二五巻が
刊行され、来春にはさらに一
刊

〇点の刊行が予定されてい
る。(各1890円、農文協

農文協 VESTA

歴史を縦断し、地球を横断して、
食生活の背景に広がる自然と人
間、人間と人間の関係に迫る食文
化研究誌。

年4回刊 A5判 定価750円(〒110円)
年間購読料3000円(〒込)

●40号
特集：食をコーディネートする

●39号
特集：国境を越えた日本食

食文化活動

学校栄養士の総合学習への参画に結びつく実
践例を紹介したり、生活習慣病予防活動を積
み重ねて来た結果、高齢者の健康づくりに成
果を上げている行政栄養士らの地域実践活動
事例などを特集。栄養士必見の雑誌です。

年2回刊 A5判・定価400円(〒80円)年間購読料800円(〒込)

●30号
特集：ここまで来た! 学校栄養職員の
「総合的な学習」づくり

●28号
特集：「総合的な学習の時間」を食でつくる
—地域の宝を学校に呼び込む栄養士

保健室

いま、保健室に現われている子どもたちの問
題は、保健室だけの問題ではなく、学校教育
全体の課題です。保健室を開放し、そこから
見える子どもの実態を全教職員で共通理解を
図りながら学校の課題を具体的に明らかにす
る取組みが求められています。

「保健室」はそんな取組みの力になる実践書です。

全国養護教諭サークル協議会 舟見久子

隔月刊 A5判・定価700円(〒100円)年間購読料4800円(〒込)

●90号(2000年11月号)

特集：いま復活する感染症 いま、どうして感染症が復活するのか

●89号(2000年9月号)

特集：発達のプロセスを見直す

いま地域と学校が結びつく意味 ——農村と都市の動きから

岸 裕司・習志野市秋津コミュニティ会長

<http://www02.u-page.so-net.ne.jp/ca2/jun50fty/>



掘りたての井戸水をドラム缶に入れて、さっそく露天風呂を楽しむ秋津小学校の子どもたち。奥がビオトープの池と田んぼ。

学校は地域活性化の「へん」、 子どもは地域の宝

新潟県のある過疎地の小学校が、五年前に廃校になりました。文部省が「廃校にしても補助金を返還しないで済むように変えたこと」から、村は特別養護老人ホームに変えました。数名いた子どもたちは、遠くの学校に通うようになりました。昼は村に子どもたちの声が聞こえなくなりました。村は、この先さびれる一方に感じます。

一方、鳥取県会見町は、会見第二小学校の児童数が平成一四年度にはゼロになることを見越して積極策に打って出しました。廃校を防ぐために、なんと学校の隣接地に町営住宅を建設し児童のいる家庭に格安で貸すことにしました。昨年度六戸、今年度は四戸を建設中。三LDKで冷暖房と駐車場付きで、家賃は月二万円とのこと。

予算をかけないで、いま有る学校施設を有効活用

岩手県紫波町では、この十月から町立全十四の小中学校図書館と公民館図書室(通称・野村胡堂文庫)をオンラインでつなぐとともに、全十万冊のデータを個人でもインターネットで検索できるようになります。さらに、三校の小中学校の図書館を町民に開放し、胡堂文庫とともに利用できる図書館が一挙に増大します。学校教育として使わない全土曜日と一部の日曜日の午後を「町民図書室」として転用します。三校に出向けば、他の学校図書館の本も借りられます。本の貸出しのほかに、パソコンやインターネットが無料で利用でき、調べ学習が自由にできるようになります。また、二つの小学校図書館では日曜日にNPOの方々に「おはなし会」も開催します。さらに中学校では、中高年齢の方々を対象に「インターネット塾」も開催します。

都市部でも「学社融合」で、 ビオトープづくりや井戸掘り実現

私の居住する千葉県習志野市秋津は、東京のベッドタウンとして二〇年前に出来た新興団地です。埋立地のために自然は何もありませんでした。「無いなら創ろう!」との、学校と地域社会が融合しての「学社融合」教育で、まちの中心にある市立秋津小学校の校庭にビオトープ(池や田んぼなどの自然観察園)を創りました。その延長で、今年の夏休みには井戸まで昔の手掘り技術で掘りました。井戸があれば「イザ!」の時、防災避難所の学校機能が充実しますし、池の水にも利用できれば一石二鳥です。

文部省が推進する地域住民に 「開かれた学校」

中央教育審議会の答申(一九九八年九月)には、以下の文言があります。

「……特に、住民の日常生活圏に最も身近に存在する学校は、学校教育の実施という本来の機能を前提として、地域住民の生涯学習やコミュニティ活動の拠点としても、その資源を有効に活用していくことが重要である。(第四章三より)」

農村でも都市部でも、学校と地域が結びつくことでさまざまな積極策が出来るのです。「開かれた学校」と「創造的な地方の時代」は、どうやらセットでやって来そうです。

農文協

食と農で地域と学校を結ぶ

月刊 現代農業

月刊 A5判 定価800円(〒120円)
年間購読料9600円(〒込)
●現代農業特別号(農業の技術・自給の知恵)
●現代農業9月号(学校給食に地元野菜を届ける)

21世紀の日本を考える 【食料・農業・農村】

年4回刊 A5判 定価400円(〒80円)
年間購読料1600円(〒込)
●10号 環境を保全する循環型町づくり
●8号 21世紀の人材を育む農業・農村

増刊 現代農業

経済合理性では解決できない環境・医療・福祉・教育の矛盾を農の原理＝自給・相互扶助・互酬で切り開く! 食農教育、定年帰農、都市農村交流など新しい社会の芽を全国からレポート。

季刊 A5判・定価900円(〒120円)年間購読料3600円(〒込)

●日本のグリーンツーリズムのすすめ
(2000年11月)

●楽しいね!! 食べもの教育応援団
(1997年8月)

農業教育

「生き物に学ぶ」「地域に学ぶ」さらに「教えることで学ぶ」ことで、教育を組み替え、課題解決学習や「総合的な学習」を先導した、農業高校の教育実践を軸に、これからの高校教育、地域の教育の姿と方向を大胆に提示。

年2回刊 A5判定価400円(〒80円)年間購読料800円(〒込)

●60号(2000年6月)

特集 新科目・新課程はこう教える

●59号(1999年12月)

特集・すべての高校で農業教育を
——高校改革への新たな挑戦

【事例募集要項】今年11月30日締切！来年4月表彰

教育関係者と農林漁業関係者が連携して進める 「食」と「農」の学習・実践事例をご応募ください

文部省委嘱事業

この事例募集は、文部省から委嘱された「新しいライフスタイル等の形成に関する調査研究」(研究会代表：富岡賢治国立教育研究所長)をすすめるためのものです。



1 趣旨

「総合的な学習の時間」は、国が学習内容を定めずに、学校独自に地域の個性を活かした教育を創造するという、近代日本の教育史上、画期的な時間です。

子ども達のもとと生活文化の創造と伝承が行なわれる地域(いえ、むら)の「人づくり」の場で育ち、その土台の上に学校教育も成り立っていました。高度経済成長期以来、そのような地域の教育力が急速に衰えたことが、子ども達に危機をもたらしている

のではないのでしょうか。

いま、地域の教育力の再生、地域と学校との再結合のときです。

そこで、生涯学習と学校での学習を統合的に捉えつつ、「農林漁業関係者(農林漁業各種協同組合、農業改良普及センター・食糧事務所・各種NPO等々の諸組織)と「教育関係者」(小中学校、盲・ろう・養護学校、公民館、図書館、博物館などの施設および社会教育関係団体)が連携して進める「食」と「農」の学習・実践事例を集め、モ

デルになりうるものを選択して「優良事例集」を作成し、表彰なども別途行なうことにいたしました。

事務局

〒107-8668

東京都港区赤坂7-1-61

(社)農文協文化部内

(担当)伊藤 清水

電話03-35585114

Fax03-35585146

E-mail: info@ruralnet.or.jp

@mail.ruralnet.or.jp

5 応募方法

活動の概要を末尾にある「書式」の要領でまとめて、郵送してください(Eメールまたはフロッピーの郵送を歓迎)。実践をより具体的に説明するための資料(ビデオ・写真・印刷物等)も郵送願います。

6 結果の発表

①優れた事例を取りまとめ、年度末(平成十三年三月)に「優良事例集」を作成し、応募者へお送りいたします。

②平成十三年四月の東京国際ブックフェアの「食農教育セミナー」の場で表彰します。

■書式

①団体名(学校名・施設名等)②代表者名③記述担当者名④団体所在地⑤電話番号⑥ファックス番号⑦メールアドレス⑧活動の名称(テーマ・キャッチフレーズ等)⑨活動の概要(おおむね四〇〇字程度で記述)⑩活動開始年・動機(おおむね四〇〇字程度で記述)⑪活動の現況(ねらい、参加人数、活動回数、経費、活動の成果や課題等)(おおむね三〇〇〇字程度で記述)

4 問い合わせ・提出先

「新しいライフスタイル等の形成に関する調査研究会」

二〇〇〇年十一月三日(木曜日)

3 応募締切

③その他、教育関係者と農林漁業関係者が連携してすすめる学校農園・家庭菜園づくり、都市農村交流、まちづくり、むらづくり活動等

「農」(林漁業)の情報発信等に取り組み、成果をあげている事例。

公民館・図書館等が農林漁業関係者と協力して、郷土料理の発掘や新たな特産物の開発、地域の「食」や

「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

小中学校で「総合的な学習の時間」や各教科等の学習において地域の「食」と「農」(林漁業)を題材としてとりあげたり、学習をすすめるに当たり農林漁業関係者の指導を得る等して、成果を挙げている事例。

②社会教育施設等における地域の「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

公民館・図書館等が農林漁業関係者と協力して、郷土料理の発掘や新たな特産物の開発、地域の「食」や

「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

小中学校で「総合的な学習の時間」や各教科等の学習において地域の「食」と「農」(林漁業)を題材としてとりあげたり、学習をすすめるに当たり農林漁業関係者の指導を得る等して、成果を挙げている事例。

②社会教育施設等における地域の「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

公民館・図書館等が農林漁業関係者と協力して、郷土料理の発掘や新たな特産物の開発、地域の「食」や

「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

小中学校で「総合的な学習の時間」や各教科等の学習において地域の「食」と「農」(林漁業)を題材としてとりあげたり、学習をすすめるに当たり農林漁業関係者の指導を得る等して、成果を挙げている事例。

②社会教育施設等における地域の「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

公民館・図書館等が農林漁業関係者と協力して、郷土料理の発掘や新たな特産物の開発、地域の「食」や

「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

小中学校で「総合的な学習の時間」や各教科等の学習において地域の「食」と「農」(林漁業)を題材としてとりあげたり、学習をすすめるに当たり農林漁業関係者の指導を得る等して、成果を挙げている事例。

②社会教育施設等における地域の「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

公民館・図書館等が農林漁業関係者と協力して、郷土料理の発掘や新たな特産物の開発、地域の「食」や

「食」と「農」(林漁業)を題材とした学習活動

農文協

<http://gakkou.ruralnet.or.jp/>

「食と農 学習のひろば」へようこそ！

このサイトは、皆様のご意見を入れて日々発展させていきます。

このサイトは、新しい『総合的な学習の時間』で食農教育をすすめるようとする先生方を支援するサイトです。このサイトは、農文協が60年の歴史の中でつちかった、食と農に関するデータベースや書籍を日々の教材づくりに活用していただくためのパイプ役を果たします。

(社)農山漁村文化協会

[本をさがす]

■食と農の本をさがす■NCLの会■日本書籍出版協会の「Books.or.jp」■雑誌の「ブックバー」を探す■食農教育/技術教室/保健室/農業教育/食文化活動/現代農業/■絵本

[動きを知る]

■職員室におじゃまします■全国 食べもの・農業博物館リスト■全国 農業小学校リスト

[教材をつくる]

■調べよう 食べものと農業■「食と農」学習データベース■ルーラル電子図書館のご案内■教材をオンデマンドで作ろう



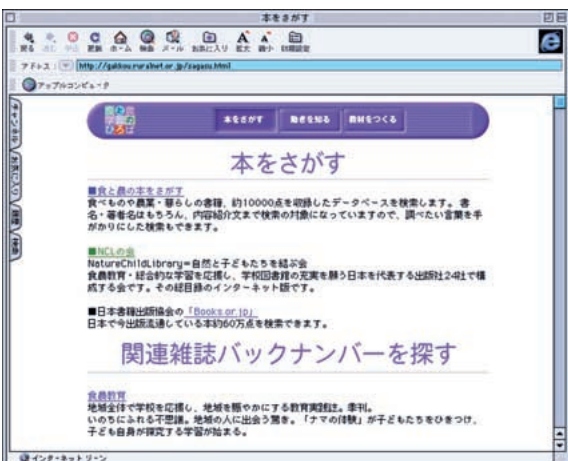
食農データベースと結合したオンデマンド出版で 地域の特徴ある教材づくりを!

食と農の調べ学習 専門サイト

東海農政局の調査にもあるように(4面参照)、「総合的な学習の時間」の実施をまねにして農業体験学習に取り組む学校が大きく増えている。

「総合的な学習の時間」では、このような「体験学習」とともに、体験を基にした「調べ学習」が重視されているが、食や農の本などはなかなか身近な場所には見つからないし、たとえ本がそろっていたとしても、自分が求める情報に的確に行き着くのは容易なことではない。

そういう状況の下で、農文協がインターネット上に開設した「食と農 学習のひろば」(<http://www.gakko.ruralnet.or.jp/>)は、食と農の膨大な情報を持つ農文協のデータベースがアップされており、「苗つくり」×「病気」とか、「外国」×「稲作」など、自分や子どもたちに必要な情報のキーワードを入れれば、何の本(雑誌)の何頁を調べればよいか、これらの



「食と農 学習のひろば」の「本をさがす」のコーナー

サイトを活用して、調べ学習を深めて「総合」を実りあるものにしたい。そんな思いで、**「オンデマンド出版で独自の教材づくり」**

膨大なデータベースの中からこうして選び出した必要なデータの本文部分を編集し、必要な部数だけ印刷・製本するのがオンデマンド出版だ。オンデマンド出版は、絶版本の受注出版といったイメージが持たれているが、食農データを活用して、調べ学習を深めて「総合」を実りあるものにしたい。そんな思いで、**「オンデマンド出版で独自の教材づくり」**

情報交流 教材づくりをめざし 「総合的な学習」の研究を発足!

フォーラム「食」と「農」の地域教材で創る「総合的な学習の時間」と、「食と農」の情報活用講座「データベースを活用した教材づくり」が開催された(10月8・9日、徳島市)。開催したのは、九月に発足したばかりの「とくしま総合的な学習研究会」。研究会は「『総合的な学習の時間』を食農教育によって充実させ、子どもたちの『生きる力』の涵養に資すること」を目的としている。総合的な学習と食農教育の結合を謳った研究会は、この「とくしま総合的な学習研究会」が全国で初めてだ。

国立教育研究所の奈須正裕先生を初めとした講師陣が「総合的な学習とはなにか」という問題に実践的に切り込んだフォーラムと、農文協の食と農のデータベースを活用



農文協

<http://www.ruralnet.or.jp/lib/>
「ルールル電子図書館」

「ルールル電子図書館」は、会員の方だけがご利用できる本格的な電子図書館です。食べもの・健康・農業・環境などの情報を検索できます。出版物の著作権を保護する立場から会員制で運用しております。

<「ルールル電子図書館」で利用できるコンテンツ>

「現代農業データベース」1985年以降近刊号まで5万ページ、2万余件のデータを収録
「日本の食生活全集データベース」全国300地域、5000人の話者より取材した、昭和初期の日本の食と暮らしのデータベース。52000種類の料理、15000枚のカラー画像データ、豊富な地域の暮らしテキストデータを収録。
「農業技術大系データベース」約9万データ。農業研究の集大成である土壌施肥編、野菜編、作物編、果樹編、花卉編、畜産編の6シリーズを全巻にわたって検索します。
「写真データベース」特選コーナーの他、イネ・野菜・果樹などの作物の栽培・診断、土づくり・施肥、病害虫・天敵、花卉、畜産、昭和30年代の農業と暮らし、健康・食べものなど10のジャンルのぼう大な写真をデータベース化



- 年会費25,200円(入会金サービス)
- データ表示50頁まで無料、50頁以上1頁につき50円課金

(社)農山漁村文化協会「ルールル電子図書館」事務局
〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1
TEL.03-3585-1149 FAX.03-3585-6466

本の寄贈運動で子どもたちの学習を支援!

<http://www.green.or.jp>

食と農の総合的学習を地域で支援

次世代を担う子どもたちにメッセージとして本を贈る運動が各地で盛んになってきている。「次世代との共生」を運動目標に掲げ、学童農園への支援活動を進めるJAでも、子どもたちにいのちを育む基幹産業である農業への理解を深めてもらうと、絵本やビデオを寄贈するところや近年目立っている。たとえば、長野県のJA松本ハイランドでは、昨管内の二五の小学校にビデオ『水田の秘密』(農

次代の子どもたちに贈る緑の本50選

「荒れた国土に緑の晴衣を」をスローガンに、戦後の荒れ果てた国土に緑を取り戻す運動が始まって今年で50周年。この運動を先頭に立て進めてきた(社)国土緑化推

進機構(木村尚三郎理事長)では「国土緑化50周年」を記念して、未来を担う子どもたちに国土の緑を守り育てて行くことの大切さを知ってもらうと、「子ども読書年」同機構では、こうした緑の

にちなんで「心の中の緑の本50選」(左記カコミ参照)を選定した。

例えば、葉っぱの一年、一生を通して、生きていることの意味を問ひかけ、大人の間でもベストセラーとなった絵本『葉っぱのフレディ』のちの旅(童話屋、荒野に黙々とドングリを植え続け、最後には大きな森林を築き上げた羊飼いの男の姿を描き、アニメーション映画でも話題を呼んだ『木を植えた男』(あすなろ書房)など、いずれも自然の生命力のたくましさや美しさ、自然と人間との心温まる交流、自然を守り育てる人々の粘り強い努力などを描いた名作揃い。中には『どんぐりノート』(文化出版局)や『木の100不思議』(日本林業技術協会)など森の調べ学習に向く本も多く入っている。

本に子どもたちが出会う機会を少しでも増やそうと、本の寄贈運動にも取り組んでいる。寄贈を受けたある学校では、図書室に緑の本50選のポスターを張って設置、絵本を中心に子どもたちにとっても人気だという。また、先生方の間でも自分の子ども時代を読んだ作品を懐かしがる人や早速レイチェル・カーソンの名著『沈黙の春』(新潮社)を借りて読む人もおり、大変評判がよいとのこと。

なお、「緑の本50選」は、農文協直営の農業書センターに全点揃えて販売している。希望の方は同センターまでアクセス(03-3270-2800)でご連絡を。また、緑の本50選の内容紹介は(社)国土緑化推進機構のホームページ(<http://www.green.or.jp>)を「見下ろし」をダウンロード。

未来を担う子どもたちに贈る『心の中の緑の本50選』

★絵本★カボックの木 1,893円 童話屋/4ひきのあさごはん 1,200円 童心社/たんぼぼ 838円 福音館書店/おおきなきかほしい 1,000円 偕成社/どんぐりノート 1,262円 文化出版局/はるにれ 900円 福音館書店/よもぎだんご 838円 福音館書店/森へ 1,300円 福音館書店/もりのえほん 800円 福音館書店/おおきな木 1,107円 篠崎書店/おぼえているよおきな木 1,000円 講談社/木のうた 1,359円 ほるぷ出版/ちいさいおうち 1,500円 岩波書店/ちいさなもみのき 1,100円 福音館書店/葉っぱのフレディ 1,500円 童話屋/びゅんびゅんこまがまわった 1,300円 童心社/もりのなか 900円 福音館書店

★文学★度十公園林 1,400円 偕成社/あるきだした小さな木 1,200円 偕成社/大きな森の小さな家 1,600円 福音館書店/グリックの冒険 1,748円 岩波書店/木を植えた男 1,600円 あすなろ書房/のどか森の動物会議 1,267円 童話館出版/はじめてのキャンプ 1,200円 福音館書店/秘密の花園 2,100円 福音館書店/森は生きている 1,900円 岩波書店/森はだれがつくったのだろう? 1,300円 童話屋/森は呼んでいる 1,262円 岩波書店/沈黙の春 2,000円 新潮社/種をまく人 1,200円 あすなろ書房/ぼくの稲荷山戦記 1,650円 講談社/リトル・トリ 1,800円 めくるくる/みどりのゆび 600円 岩波書店

★ノンフィクション★森林がきえていく 2,260円 金の星社/国土を守る森づくり 2,767円 文研出版/さまざまな木のすがた 2,800円 大日本図書/大都会に造られた森 2,233円 農文協/人間を生かす森 2,800円 大日本図書/法隆寺2,200円 草思社/森ができるまで 2,800円 大日本図書/生きている森 1,068円 文研出版/一本の木からはじまった 1,262円 アリス館/川は生きている 1,068円 講談社/ブナの森は緑のダム 1,800円 あかね書房/森は生きている 1,262円 講談社/森林はなぜ必要か 1,165円 小峰書店/木を植えて魚を殖やす 1,300円 家の光協会/木に学べ 1,400円 小学館/木の100不思議 1,165円 東京書籍/レイチェル・カーソン 1,262円 ほるぷ出版

■価格は税別、改訂する場合もございます。ご了承ください。ただいま、NCL児童書センターで展示販売中(東京・大手町 電話03-3245-7647)。なお、通販でのお申し込みは、田舎の本屋さんでも受け付けています。(FAX.03-3589-1387)

農文協

会員制ブック サービス 田舎の本屋さん

▶近くに書店も図書館もなく、不便な地域の方々に向けて開設したブックサービスです。専門書・児童書などはなかなか店頭になく、入手し難いという方々もご利用いただいています。

▶何冊注文されても1回送料400円で確実に調達してお届けします。会員になれば、送料無料でご利用いただけます。NCLの会(自然と子どもを結ぶ会)の目録掲載セットなどは、いち早くお届けできます。

「田舎の本屋さん」の通販はどなたでもご利用できます。
ご注文・支払い方法/インターネット・電話・FAX・郵便でもOK。
送料1回400円。郵便振替送金・口座自動引き落としでもOK
◎入会すれば、送料無料で特典として各種目録・出版案内が届きます。
◎入会金1050円 年会費2100円
(入会申込書送付します。ホームページの申込書をコピーしても可)

『田舎の本屋さん』事務局

農文協 普及企画部内
東京都港区赤坂7-6-1 〒107-8668
<http://www.ruralnet.or.jp/shop/> 電子メール shop@mail.ruralnet.or.jp
電話03(3585)1141 FAX03(3589)1387